

基礎医学演習

責任者・コーディネーター	細胞生物学分野 齋野 朝幸 教授		
担当講座・学科(分野)	人体発生学分野、分子医化学分野、細胞生物学分野、統合生理学分野、感染症学・免疫学分野、医学教育学分野		
担当教員	人見 次郎 教授、古山 和道 教授、齋野 朝幸 教授、村木 靖 教授、佐藤 洋一 教授、久保田 美子 准教授、木村 眞吾 准教授、吉野 直人 特任准教授、中村 一芳 講師		
対象学年	2	区分・時間数	演習 31.5 時間
期間	後期		

・学習方針（講義概要等）

適切な診断・治療の実践には、個々の患者の病態生理に関する十分な理解が必要である。そのためには広範な基礎医学・生命科学の知識とこれらを統合する能力が要求される。本演習では、1 学年および 2 学年前期で学んだ基礎医学・生命科学の知識を個々の理解度（習熟度）に応じた学習方略で整理し、これらの知識が臨床医学の現場でどのように役立つのか演習形式で学び、CBT に向けての準備を行う。

・教育成果（アウトカム）

CBT (Computer-based Testing) 試験では、医学教育モデル・コアカリキュラムに示されている到達目標 (SBO) に沿った内容の問題が、多肢選択試験 (MCQ : Multiple Choice Question) 形式で出題される。この授業で CBT 試験に向けて 1 学年及び 2 学年前期で学んだ各教科における知識の整理と、出題形式に慣れる作業を通じて、各科最低限の知識の確認・習得が期待でき、CBT および医師国家試験合格に到達する。
(ディプロマ・ポリシー : 2)

・到達目標 (SBO)

個々の行動目標は授業担当者毎に授業の開始時に提示される。

以下、基礎医科学演習として行動目標の概要を示す。

- 1)演習問題の作問意図を指摘できる。
- 2)演習問題の関連知識を説明できる。
- 3)正解を導くに至った基礎知識と思考過程を説明できる。

・講義日程

(矢) 西 102 1-B 講義室

【演習】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
9/4	月	1	統合生理学分野	木村 眞吾 准教授	医科生理学 興奮性細胞の性質、シナプス機能、筋収縮に関連する CBT 形式の問題演習
9/4	月	2	医学教育学分野	佐藤 洋一 教授	細胞生物学 I 細胞の形態・機能に関連する CBT 方式の設問を用いた演習
9/5	火	1	人体発生学分野	人見 次郎 教授	骨学 骨学に関する CBT 類似の問題演習。
9/5	火	2	感染症学・免疫学分野	吉野 直人 特任准教授	基礎免疫学 基礎免疫学に関連する CBT 方式の設問を用いた演習
9/6	水	2	細胞生物学分野	齋野 朝幸 教授	基礎組織学 組織学総論に関する CBT 類似の問題演習。
9/6	水	3	感染症学・免疫学分野	村木 靖 教授	基礎微生物学 基礎微生物学（感染症の概念、細菌の構造、増殖、滅菌・消毒など）に関連する CBT 方式の設問を用いた演習
9/6	水	4	分子医化学分野	古山 和道 教授	細胞生物学 II 細胞の機能、特に分子生物学的な領域に関連する CBT 方式の設問を用いた演習

9/8	金	2	分子医化学分野	久保田 美子 准教授	医化学Ⅰ 生化学の領域における基本的な知識を確認するための、CBT方式の設問を用いた演習
9/8	金	3	医学教育学分野	佐藤 洋一 教授	細胞生物学Ⅰ 細胞の形態・機能に関連するCBT方式の設問を用いた演習
9/8	金	4	細胞生物学分野	齋野 朝幸 教授	器官解剖学 組織学の各論に関する CBT 類似の問題演習。
9/11	月	1	統合生理学分野	木村 眞吾 准教授	神経生理学 感覚、運動、自律系、本能行動、高次神経機能に関連する CBT 形式の問題演習
9/11	月	2	人体発生学分野	人見 次郎 教授	器官解剖学 組織学に関する CBT 類似の問題演習。
10/2	月	1	統合生理学分野	中村 一芳 講師	医科生理学 細胞生理学、血液生理学に関する CBT 類似の問題演習。
11/1	水	1	分子医化学分野	古山 和道 教授	医化学Ⅱ 生化学・分子生物学の領域における基本的な知識を確認するための、CBT方式の設問を用いた演習
11/8	水	1	細胞生物学分野	齋野 朝幸 教授	神経解剖学 神経解剖学に関する CBT 類似の問題演習。
11/15	水	1	医学教育学分野	佐藤 洋一 教授	器官解剖学 肉眼解剖学に関する CBT 類似の問題演習。
11/22	水	1	統合生理学分野	中村 一芳 講師	器官生理学 呼吸生理学、内分泌生理学に関する CBT 類似の問題演習。
12/6	水	1	統合生理学分野	中村 一芳 講師	器官生理学 循環器生理学、消化器生理学に関する CBT 類似の問題演習。
12/8	金	2	人体発生学分野	人見 次郎 教授	発生学 発生学に関する CBT 類似の問題演習。

12/13	水	1	統合生理学分野	中村 一芳 講師	器官生理学 腎・体液生理学に関する CBT 類似の問題演習。
12/13	水	2	医学教育学分野	佐藤 洋一 教授	器官解剖学 肉眼解剖学に関する CBT 類似の問題演習。

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	標準組織学 各論 5 版	藤田恒夫、藤田尚男 著	医学書院	2017
教	解剖学講義（改訂第 3 版）	伊藤 隆	南山堂	2012
教	ラングマン人体発生学 11 版	T. W. Sadler 著、安田峯生 訳	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2016
教	カラー図解人体の正常構造と機能 改訂第 3 版	坂井建雄、河原克雅	日本医事新報社	2017
教	シンプル微生物学改訂第 5 版	東匡伸、小熊恵二、堀田博	南江堂	2011
	その他各科で使用する教科書			

・成績評価方法

統合型試験を MCQ 形式で行う。
 欠席する場合、きちんとした理由がない場合は認められないので理由書を提出すること。
 なお、講義への出席が規定の出席数に達しない場合は原則として期末試験の受験資格は無い。

・特記事項・その他

この授業はあくまでも講義を行うのではなく、問題の演習に主眼を置く。シラバスに記載されている内容及び各回に配布・提示される教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授

業に対する事前学修の時間は最低 30 分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。
授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	PC 画面投影装置	2	問題演習・解説
講義	ノートパソコン	2	問題演習・解説
実習	クリッカー	130	問題演習